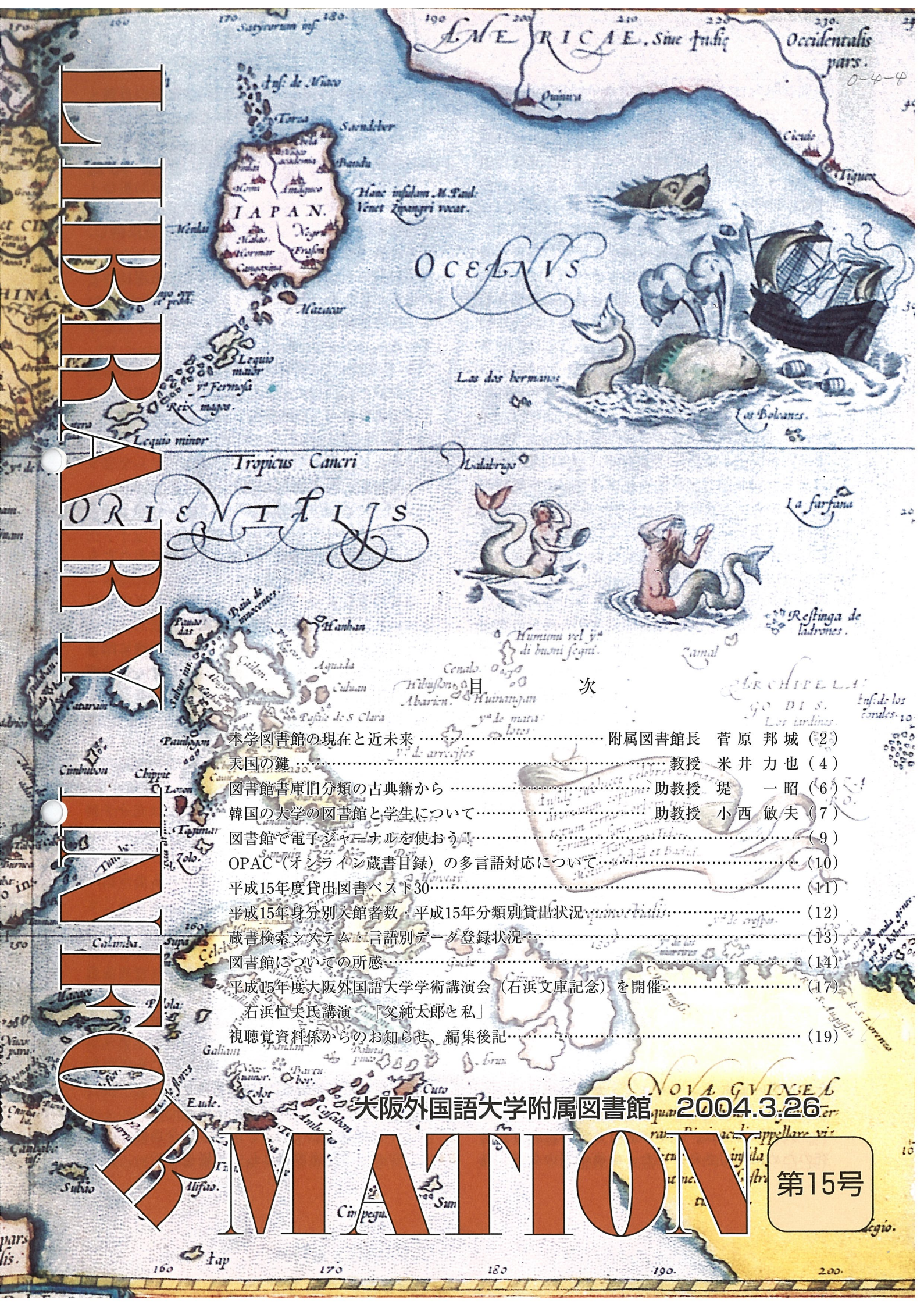
# LIBRARY INFORMATION



## 目　次


本学図書館の現在と近未来 …… 附属図書館長　菅原 邦城（2）
天国の鍵 …… 教授　米井 力也（4）
図書館書庫旧分類の古典籍から …… 助教授　堤　一昭（6）
韓国の大学の図書館と学生について …… 助教授　小西 敏夫（7）
図書館で電子ジャーナルを使おう！ …… （9）
OPAC（オンライン蔵書目録）の多言語対応について …… （10）
平成15年度貸出図書ベスト30 …… （11）
平成15年身分別入館者数・平成15年分類別貸出状況 …… （12）
蔵書検索システム：言語別データ登録状況 …… （13）
図書館についての所感 …… （14）
平成15年度大阪外国語大学学術講演会（石浜文庫記念）を開催 …… （17）
　石浜恒夫氏講演　「父純太郎と私」
視聴覚資料係からのお知らせ、編集後記 …… （19）



大阪外国語大学附属図書館　2004.3.26

第15号

# 本学図書館の現在と近未来

附属図書館長
菅原 邦城

私が昨年3月に附属図書館長に任じられてから、はや10ヶ月が経ちました。それだけの短期間では、当たり前ですが、図書館の隅々まで通じるようになったとは決して言えません。それでも、国立大学法人化を目前にして、図書館としての準備も急を告げ、職員の皆さんが連日仕事に追われ、残業につぐ残業を行って対応をしていることは、皆さんにお知らせすることはできます。

図書館長になったおかげで、さもなければ経験することはなかった仕事もさせてもらいました。それは「平成14年度着手の分野別教育評価（人文学系）の自己評価書」、及び「平成14年度着手の全学テーマ別評価（国際的な連携及び交流活動）のヒアリング」の責任者としての仕事でした。（寝食を忘れて作成に協力いただいた教員・職員の皆様にはこの場を借りて、改めて心から御礼申し上げます。）その作業過程を通じて、これまで大学も図書館もいかに太平楽に過ごしてきたかが露わになりました。ちなみに、他の国立大学と本校のホームページを見比べて、両者間の優劣を判断してみてください。

前置きが長くなりましたが、これも読者、中でも学生の皆さんにこの大学と附属図書館の置かれている現状の一端を少しでも承知していただきたいからです。

さて、一昨年10月後半に図書館委員会が行ったアンケート調査に基づいてまとめられた附属図書館の『自己点検・評価報告書』が昨年度末に公表されました。（これは図書館閲覧室、学生課まえの廊下の机、教務課まえの机の上に常備してありますのでご覧ください。）遅くなりましたが、報告書をとりまとめていただいた先生方には衷心より感謝申し上げます。報告書では多方面にわたって分析がなされ、問題点が指摘されています。少々長くなりますが「全般的課題」と題された冒頭個所を直接引用して、報告書未見の読者の皆さんに、図書館とはいかなる働きをすべき施設か、またこの大学の図書館の現状を、まず認識していただきたいと思います。

「大学図書館は、大学における学習、教育、研究のために利用され、また、学術情報の受信・発信という機能をもそなえた基盤施設である。その任務は、学習、研究に快適な利用環境を提供し、図書資料の充実をはかるとともに、蓄積した学術情報の発信を通じて知的資産の社会的活用につとめることにある。その任務をまっとうするために、本学図書館は以下にかかげる基本的目標を設定している。

（1）移転後23年を経て狭隘化、老朽化した図書館施設の全面的改修を行い、学習、研究のためのより快適な利用環境を整える。
（2）図書資料の系統的な収集・整備につとめるとともに、多言語データベースシステムを完全構築し、広く社会に提供する。
（3）本学の学術情報機構の一翼を担い、電子図書館的機能の充実・強化をはかる。
（4）図書館の利用者サービスを充実させるとともに、地域・社会に開かれた図書館をめざす。

施設の改修については、総合研究棟の平成15年建設にあわせて、図書館内の視聴覚施設が総合研究棟に移設されることになり、これを契機に図書館の全面的改修の可能性が生まれてきた。この機会をのがすことなく、改修計画を実現するとともに、図書の集中管理、閲覧・開架スペースの拡充などを進め、快適な利用環境を整えなければならない。（中略）法人化後の予算措置の全体像は明らかになっていないが、緊縮財政下で、図書館経費、図書購入費も削減されるであろうことは充分予測可能である。図書資料の収集・整備については、全学的な観点からの配分がなされるよう、また学生・院生用図書の整備・充実がなされるよう、配慮する必要がある。

文科系単科大学における附属図書館は、その大学の教育研究のいわば顔とも言うべき存在である。学生、教職員が温かい目で図書館を守り育てる意識を持つとともに、専門性に裏づけされたサービスの提供のためには、図書館職員の意識改革もなされなければならない。あわせて、情報リテラシー教育の充実や、開館時間の延長などにも積極的に取り組む必要がある。（同報告書１ページ）

（1）に挙げられている、図書館の全面的な改修は大学の施設関連事業として最優先で行い、学生

と教員に快適な利用環境を整えたいという強い意思は、図書館長として機会あるごとに大学当局に申し上げてきましたし、今後も訴えてゆきます。しかしながら現段階では、こちらの思い通りにコトは運ばないだろうと、実務担当者たちは予想しているのが現実です。

（2）は、図書館の学習・教育機能を高めるためにも、今後さらに徹底してゆくべきであろうと考えられます。そこで、これに関しては目下「図書館委員会収書専門部会」に検討してもらっているところです。

（3）の趣旨については学内で研修会を開くなど啓蒙活動を重点的に行い、教員のご理解をいただかねば実現しないにちがいありません。

（4）に関連しては、年末年始の土曜日来館者に対して「土曜日及び日曜日・祝日開館についてのアンケート」が3回実施されました。これは「図書館委員会自己点検・評価専門部会」のメンバーにまもなく分析をし、一定の結論を導き出していただく予定です。

『自己評価書』（p. 33）は、活用されたアンケート回答総数がきわめて少なかったため、必ずしも学生の皆さんの考えを正確に再現しているかどうかという本質的な問題を含んだものとなってしまいました。この点をいっそう正確に知るため、来年度の新入生が大学になれてきた5月頃にも、とくにサービス面について徹底したアンケートを実施したいと考えております。これは授業時間の一部を割いて実施したいと思っております。その際には、授業担当の先生方、そして教務課と図書館の職員の皆さんのご協力をいただかねばなりません。あらかじめよろしくお願いいたしておきます。

今後附属図書館をこの大学に特徴的な多言語の知的資産の宝庫とするためには、大阪外国語大学に在籍する私たちをはじめ、同窓生の諸先輩も巻き込んで一致団結して、これを近代化し充実させる努力をしなければなりません。本誌前号で前館長が使っておられる言葉を借りるならば、伝統的な活字媒体である書籍に加えて電子媒体の資料を加えた「ハイブリッド図書館」の構築をめざさねば、国際的、いや、全国的な流れから取り残されることは確実です。

遠くない将来に実現するであろう改修後の広くて明るい図書館で皆さんが、現在までほとんど見ることのなかった数十万冊の図書資料を活用してそれぞれの専門をきわめるよう勉学・研究に励んでいる姿を、この瞬間私は想像しております。それが実現すれば、独立法人化後の大学の将来も決して暗いものではないでしょう。もちろん、その実現には膨大な予算と人手が必要とされることは明らかですので、新制度下でこの方面の決定をする機関の理解と英断こそ、いっそう待ち望まれるものです。

---

# 天国の鍵

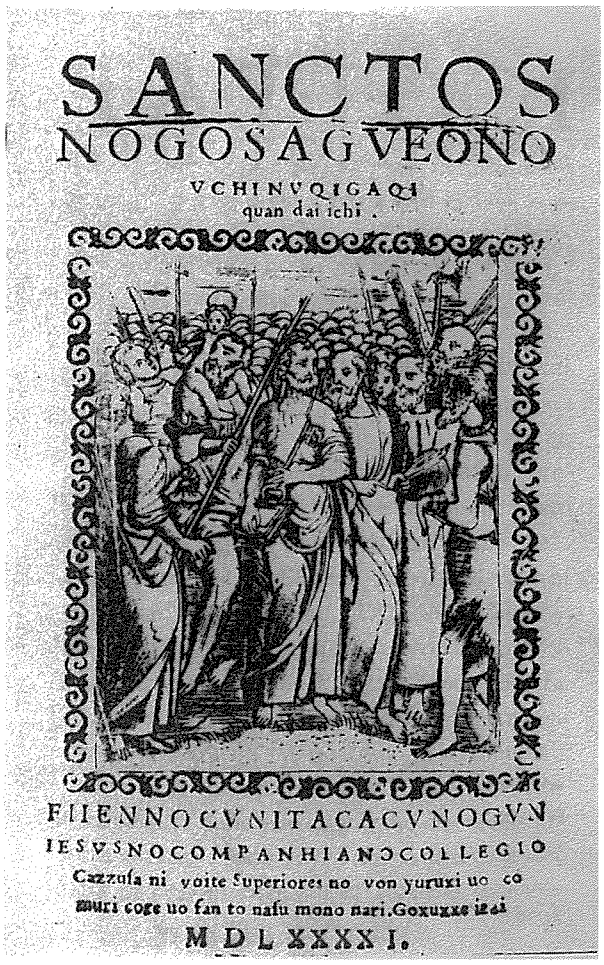
国際文化学科教授
米井 力也

織田信長が本能寺で殺される約半年前、キリシタンの宣教師に指導を受けた天正遣欧使節の少年たちが長崎から船出し、インド経由でアフリカ南端の喜望峰をめぐってヨーロッパに赴いた。彼らは南欧諸国を訪問してキリスト教文化に直接ふれることによって、日本で宣教師たちから学んだ知識を確認すると同時に新たな知見をたずさえて帰国の途についた。

1590年、その一行が8年におよぶ長い旅をおえて長崎に帰ってきたとき、積荷のなかにグーテンベルク式活版印刷機があった。この印刷機は宣教師たちが設立したコレージョ（学林）に置かれ、布教のために必要な書物がつぎつぎに印刷されはじめた。このような書物をキリシタン版と呼んでいるが、『サントスの御作業』もその1冊である。

「サントス」とは聖人、「作業」は行ない・行状を意味する。つまりこれは聖人伝の集成に他ならない。『黄金伝説』を筆頭に当時ヨーロッパで広く読まれていた聖人の伝記を日本語に翻訳してまとめたものである。

その扉には、ローマ字で「サントスの御作業のうち抜き書き巻第1」とタイトルが記され、たくさんの人の姿が描かれている扉絵の下に「肥前の国高来の郡ゼズスのコンパーニャ（イエズス会）のコレージョ加津佐に於てスペリョレス（上長）




の御許しを蒙りこれを板となすものなり」という刊記につづいてローマ数字で「御出世以来1591」と西暦が記されている。印刷機が舶載された翌年に刊行されたものだということがわかる。

扉絵には多くの聖人の姿が描かれている。その中心にいるのは、左手に大きな鍵を持っていることからイエスの弟子・十二使徒の一人聖ペテロだと判定できる。というのも、新約聖書・福音書のなかにイエスがペテロに天国の鍵を渡すと宣言する場面があるからである。

「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれ、あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる」（マタイ福音書16.19）というイエスのことばに基づいてペテロを描くときに鍵を持たせることになった。これはキリスト教図像学（Iconography）で属性（attribute）とよばれるもので、要するにこういう物を持っていたらその人は誰々だ、という指標なのである。『サントスの御作業』のペテロ伝にも「このサンペドロにはパライゾ（天国）の鍵を渡し給ふものなり」とある。

ところで、このイエスのせりふはキリシタンの時代にどのように翻訳されていただろうか？天正遣欧少年使節の帰国と同時に日本に着任したマヌエル・バレトは、先輩格の宣教師が書きとどめた翻訳文書を書写しており、そのなかに教会で朗読するための福音書の翻訳が含まれている。バレトが書写したものは『バレト写本』と総称されるのだが、そこではイエスがペテロに言ったことばが「御辺に天の国の鍵を与へん、何事にてもあれこの世界に於いて搦むべきことを天にても搦め、免さるべきことを天上にても免し給ふべしと宣ふなり」と訳されていた。

ペテロと天国の鍵のつながりは翻訳においても反復されており、日本人キリシタンもペテロを天国の鍵の管理者として認めていただろうと想像することができる。

しかし、ここで疑問が生じる。天国の鍵というけれども、それは何本なのだろうか？　このような疑問を持ったのは『バレト写本』にもそえられている聖ペテロの絵を見たときだった。

このペテロの図は『サントスの御作業』と構図がちがうので比較することはできないが、左手に持っている鍵の数が異なっているのではないだろ

うか？　重なっているためはっきりとは言えないけれども、ペテロが持っているのは紐で結わえられた二本の鍵のように見える。いったいどっちがほんとうなのだろうか？

そこで聖書の記述に戻ってみると、宣教師が翻訳の規範としたラテン語訳聖書（Vulgata）でもその元になっているギリシア語聖書でも鍵は複数形で表されていた。複数形である以上、ペテロはすくなくとも二本以上の鍵を持っていたことになる。「天国の鍵」が一本でないとしたらどういう意味だろうか？

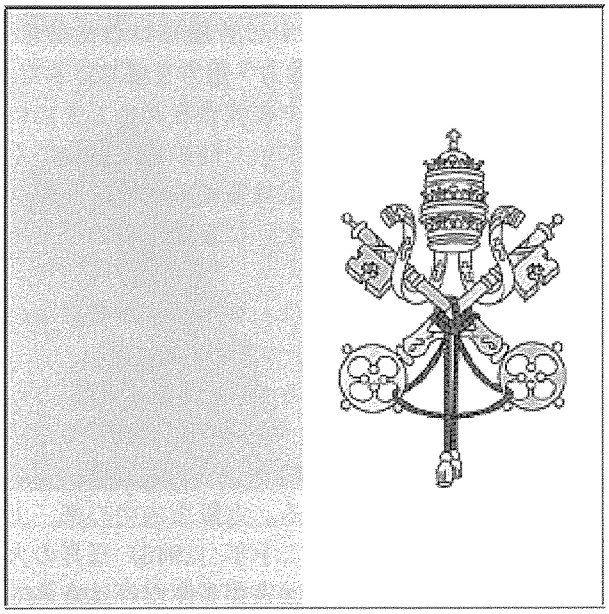
ヨーロッパにおける聖書解釈の歴史をふりかえることによってこの疑問は解消されるだろうと思ったが、そのまえに確かめておきたいことがあった。それは、ヨーロッパの絵画でペテロと鍵がどのように描かれてきたのか、ということである。

このように考えたのは理由がある。それは、聖書翻訳を取り上げている演習で、それぞれの場面に応じた絵画資料を検討するように学生諸君に言い続けてきたからである。キリスト教になじみのない者が聖書の物語を理解するための近道は絵画や映画を通じてイメージをつかむことだと思っていたので、担当者には絵画資料を調べることを義務づけてきた。原典と翻訳だけではわからなかったことが絵画を媒介にすることによってわかってくることもあると考えたのである。

このあいだまでは、絵画関係の参考図書をみながら図書館でひとつひとつの画集を開いて調べるように指示していたのだが、最近はインターネットを通じて多くの絵画資料に触れることができるので両方を勧めている。

そんなわけで、天国の鍵の本数について、まず絵画資料を調べようと思い、インターネットでアクセスすると、細部の拡大図も含めて600枚以上の画像にたどりついた。絵にそえられている解説を読みながらそれらを吟味していくと、ヨーロッパ美術ではペテロの持っている鍵は一本か二本だとわかってきた。これは、たとえば、『黄金伝説』の訳者・前田敬作が「ペテロの図像にひとつまたはふたつの鍵が描かれるが、ひとつの鍵は、天国の鍵または天と地と地獄を支配する鍵を意味し、ふたつの鍵は、ときまたはつなぐ繋釈権、または天国の門と地獄の門を開く鍵を意味する」という解釈と合致する。

しかし、絵画資料を点検していくと、しだいに天国の鍵の本数が二本に増えていくように感じられたので、さらに調べてみると、ペテロを初代教皇とするローマ・カトリック教会ならびに教皇庁の歴史のうえでは、かなりはやい段階から天国の鍵は二本であるという認識が固まっていったことがわかってきた。やがて教皇の紋章に二本の鍵が描かれるようになり、またヨーロッパの都市の紋章にも二本の鍵が描かれることになったらしい。教皇の冠と二本の鍵を組み合わせたバチカン市国の国旗はその典型と言えるのではないだろうか。



日本に活版印刷機をもたらした天正遣欧少年使節はローマで教皇に謁見を許されている。そればかりではなく、謁見したばかりの教皇が亡くなったため、その告別式と新しい教皇の就任式にも列席した。

ローマ・カトリック教会の頂点に立つ教皇にまみえることのできた彼らにとって「天国の鍵」の物語は格別に親しみ深い話であったにちがいない。

しかし、その後の四人の運命ははっきりと別れた。二人は念願の神父になったにもかかわらず病死、一人は禁教令下に捕縛され、拷問の末、殉教した。彼らはおそらくヨーロッパ人のいう「天国」に迎え入れられることになるのだろう。残る一人はヨーロッパから帰国した何年か後にキリスト教を捨てたため、天国に迎え入れられるはずもない。ペテロの鍵は四人の少年たちの未来をわける鍵でもあった。

# 図書館書庫旧分類の古典籍から

国際文化学科助教授
堤　一昭

文献史学を生業とする自分にとって、図書館とりわけその書庫は大切な「現場（フィールド）」である。そこに行く度に自分の勉強にとって何か新しい「発見」がある。学部学生時代から、その楽しさを味わうために、人気（ひとけ）のない書庫に何時間も入り浸ったものだった。自分の専門分野のみならずあちらこちらの書棚をわたり歩き、本という「モノ」の持つ魅力・迫力を感じてきた。名のみ知っていた古典籍や研究書を初めて手に取って、おそるおそる開いていく時の感慨は今でも克明に思い出される。最近は多忙のために、そもそも図書館に赴く時間がないことが悩みの種である。

これからお話したいのは、本学図書館書庫での数々の「発見」のうちの一つである。

さて、現在60万冊を越える本学の図書館蔵書のうちの一割、6万冊は前身の大阪外国語学校（太平洋戦争中に大阪外事専門学校という名称になっていた）時代からのものである。大阪市内中心部、上本町にあった学校は昭和二十年（1945）三月の大阪大空襲で焼失したが、図書館書庫だけは奇跡的に難を免れた（『大阪外国語大学70年史』）。この6万冊は「旧分類図書」と名付けられて書庫内に置かれている。さらにこのうち、糸とじのいわゆる線装本の和漢書ばかりが、書庫の一階の集密書架の一角に集められている。大部分は紺色布貼りの厚紙でできたケース「帙（ちつ）」に収められ、独特の雰囲気を醸し出している。明治時代以前の和書や漢籍の和刻本、中国の清朝時代の漢籍刊本も多い。私には実に興味深い古典籍がずらりと並んでいる。

原稿の依頼を受けてこの一角のことを書こうと思いたち、目にとまったのが、中川忠英編、石崎融思等画『清俗紀聞（しんぞくきぶん）』である。本書は現在、孫伯醇・村松一弥両氏の編で平凡社東洋文庫（3階開架西側に全冊揃えられている）に収録されて利用しやすくなっている（本書に興味をお持ちの方は、まずはこちらでご覧ください）。そこに付された村松氏の詳細な解説は、国内外の時代背景から本書成立に関わる人間関係までを分析しており、本書利用の際の必読文献である。この解説冒頭を引用し、本書を紹介しよう（平凡社東洋文庫62、127頁）。

「『清俗紀聞』は、わが鎖国時代の海外への唯一の窓であった長崎において、寛政年間、十八世紀の九〇年代に長崎奉行を勤めた中川忠英が監修者となって、中国清朝乾隆時代（一七三六－一七九五）ごろの福建・浙江・江蘇地方の風俗慣行文物を近藤重蔵ら海外事情調査に長けた幕吏が、長崎の唐通事（とうつうじ。中国語翻訳官）を動員して、長崎に渡来した清国商人から問いただし、具体的な絵図をつくり和漢混淆文で解説した調査記録である。

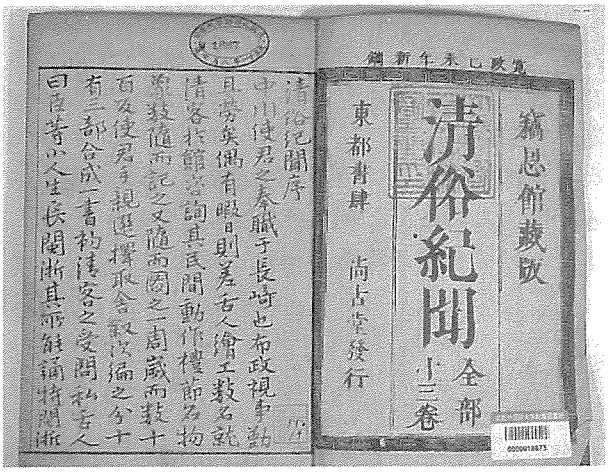
書物によらぬ実情聴取という型で、細かな事物にいたるまで綿密に具体的に記録して、できる限りいま生きている現実の清俗を把握しようとしている本書の絵図と記述とは、新しい知見を貪欲に求める日本人の目を通じての、いわば客観的な対象の選択と把握がなされていることによって、中国の文人なら見逃してしまうような、当時のもっとも一般的日常的庶民的な風俗文物をかなり正確に総合的にとらえ活写し得ており、いまとなっては当時のかの地の民俗および社会経済についての得難い貴重な資料となっている。」

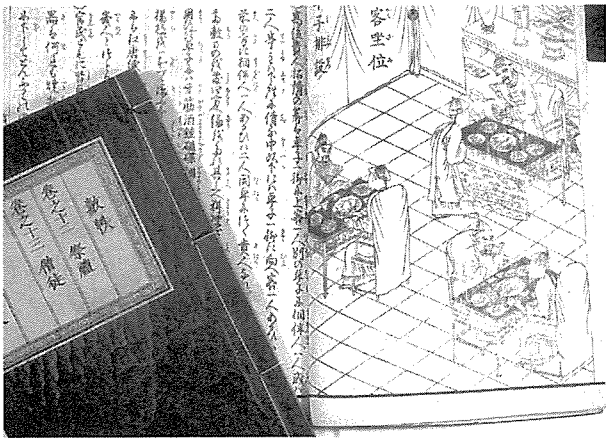
ほぼこれに尽くされているが、やはり目を引くのは全部で620点にも及ぶ事物の絵図と中国音を表記したカタカナの振り仮名である。モノクロながら実に美しい絵図は見応えがある。江戸時代のビジュアル版中国民俗誌といえようか。また、振り仮名からは江南各地域の方言の発音を何とか正確に表記しようとした努力が見て取れる。

本学図書館「旧分類図書」の『清俗紀聞』は十三巻六冊。扉には「竊恩館藏版」「清俗紀聞　全部

十三巻」「東都書肆　尚古堂発行」と三行に記され、またその上に「寛政乙未年新鐫」と横書きされている。寛政十一年（1799）、本書がはじめて刊行された際の版木によるものであることが分かる。「清俗紀聞　第〇」とある外題、各冊の内容を記した「脇方簽」を貼った表紙も刊行当初のものであり、「刷り」も美しく、保存状態もなかなかのものである。ただ、「奥書」に十四人ずらりと並ぶ「発行書林」（出版者）に、京都、大坂、尾張名古屋の本屋にならんで「東京日本橋通三丁目　山城屋佐兵衛」らの名が見えることからすると、明治初期に寛政時代の版木を用いて刷り直された「後印本」であるらしい。蔵書印には「大阪外国語學校圖書 1887　大正十一年八月七日」とあり、1922年の開校当初の蔵書七千数百冊のうちの一つと分かる。

『清俗紀聞』の内容は東洋文庫版で知っていたものの、本そのもの、字・図版の大きさなど現物から受ける感覚はまた別であった。鎖国の時代、中国の現状をより詳しく知ろうとした先人達の熱気がひしひしと感じとれる。こういう「発見」こそ、私にとって歴史研究へ立ち向かう原動力となるものなのである。



# 韓国の大学の図書館と学生について

地域文化学科助教授
小西 敏夫

私は1988年から1996年まで韓国で暮らしていました。留学していた大学はソウル大学で、教員として日本語を教えていた大学は世宗大学です。この2つの大学のことしかよくは知りませんが、韓国の大学生は図書館をよく利用します。図書館には自習室がたくさんあります。朝早く学生が登校してきて、まずこの自習室に自分の机を確保します。確保できたら、そこで一日中勉強します。授業を聞くため、また、食事をしにいくためなど、席を立たなければならない場合は、自分の持ち物を置いておいて、席を他人に取られないようにします。場合によっては、学期の初めに、どの机を誰が使うか決めることもあるそうです。登校するのが遅くなって席を確保できないと、空いている講義室を使ったり、その学生がもし何かサークルに加わっていたりすると、そのサークルの部屋で勉強したりするそうです。

自習室は土曜日や日曜日も開かれていますし、24時間学生に開放されています。韓国の大学生は朝早くから夜遅くまで大学にいます。大学が生活の中心のようになっている学生がたくさんいます。私が韓国にいたときは、まだ携帯電話も普及していない頃で、知り合いの学生に連絡を取りたいと思って、夜の10時過ぎに家に電話をかけたところ、家の人が出てきて、まだ学校から帰っていません、と言われたことが何度かあります。

韓国の大学生の図書館の利用の仕方がこのようなので、韓国からきたある留学生は、本学の図書館に学生があまりいないのを見て、「この大学の学生はあまり勉強をしませんね。」と私に言いました。そのほかにも、韓国人留学生には、「大阪外大の図書館も開館時間を長くしてほしい、土曜日や日曜日も開館してほしい、図書整理のための月末休館はやめてほしい」などと言われます。月末休館を

しないのなら、図書の整理はいつするのかと尋ねたところ、韓国の大学図書館では随時アルバイトを使って図書整理をしているので、月末休館をする必要がないとのことでした。

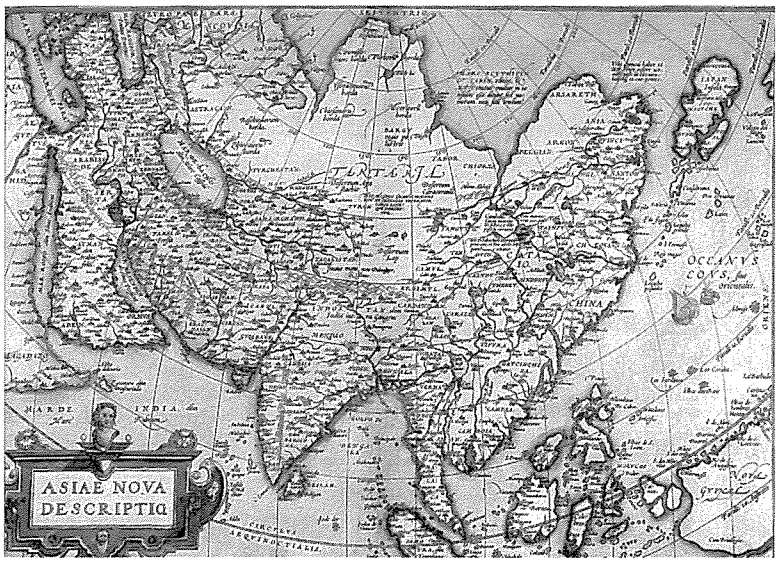
韓国の学生がこのように図書館をよく利用するのには、次のような理由があると考えられます。まず、勉強をする場所がほかに確保できない、ということが考えられます。地方からきて下宿している学生の場合、学生は下宿では勉強しません。下宿は友達と一緒に遊ぶところ、図書館は勉強するところ、と考えている人が多いようです。世宗大学を卒業して日本と取引のある会社に就職した人が、「日本人は不思議だ。」と言っていました。取引先の日本の会社から出張で韓国にやってきた日本人たちは、同僚の日本人同士で一緒に泊まらないで、必ずそれぞれ一人部屋に泊まるというのです。このようにどちらかというと、日本人は個人のプライバシーを尊重するのに対し、韓国人は多少他人のプライバシーに踏み込んででも、友達と深く付き合うことが好きなようです。けれども、韓国人の中にも、一人静かに勉強したいと考える人もいるようで、私の知っているあるソウル大生は、ソウルでの下宿生活がつらいと親に訴えたところ、両親が地方からソウルに引っ越してきてくれたそうです。

次に、韓国ではよい成績を取ることが大事なことであると考えられています。成績は「A,B,C,D,F」でつけられます。AからDまでが合格で、Fは不合格です。AからDまでは、「A＋,A０,A－」というようにそれぞれ３段階に分かれています。Fを取ったら後の学期に再履修して合格しないかぎり成績表からFが消えません。また、就職してからも大学時代の成績がものを言うことが多く、合格ではあってもいちばん低い評価のDを取ったりすると、後々までたいへん苦労するそうです。それで、学生たちはよい成績を取ろうとがんばります。その上、世宗大学では成績を相対評価でつけるので、学生たちは必死です。世宗大学にいたときに、韓国の歌曲を専攻した日本人たちがソウルで韓国と日本の歌曲のコンサートを開くので聞きにいかないかと、日本語日本文学科の学生に勧めたことがありましたが、試験期間中だからと断られました。それくらいよい成績を取ろうと努力し、そのために図書館の自習室はいつも学生でいっぱいなのです。

韓国でこのような学生たちを見ていると、どの学生を同じように見えてきて仕方がありませんでした。どの学生も勉強ばかりしていて、クラブ活動などに熱中する学生にはあまりお目にかかれませんでした。世宗大学から大阪外大に来たある留学生は、大阪外大の学生はそれぞれいろんな趣味を持っていておもしろいですね、と言っていました。

私は、韓国の学生同士が親密なのはうらやましいと思います。ある韓国人が「私は家族よりも友達を大事にします。」というのを聞いて、びっくりしましたが、それほど友情というものが大切なようです。

最近、ソウル大学の図書館では、図書の貸し出し業務も、土曜日、日曜日にもするようになったそうです。このようになれば、利用者にとってはたいへん便利だと思います。このようにして、韓国の学生は、ますます図書館に住みつくようになり、学生同士の友情を深めていくようになるのでしょうか。



# 図書館で電子ジャーナルを使おう！

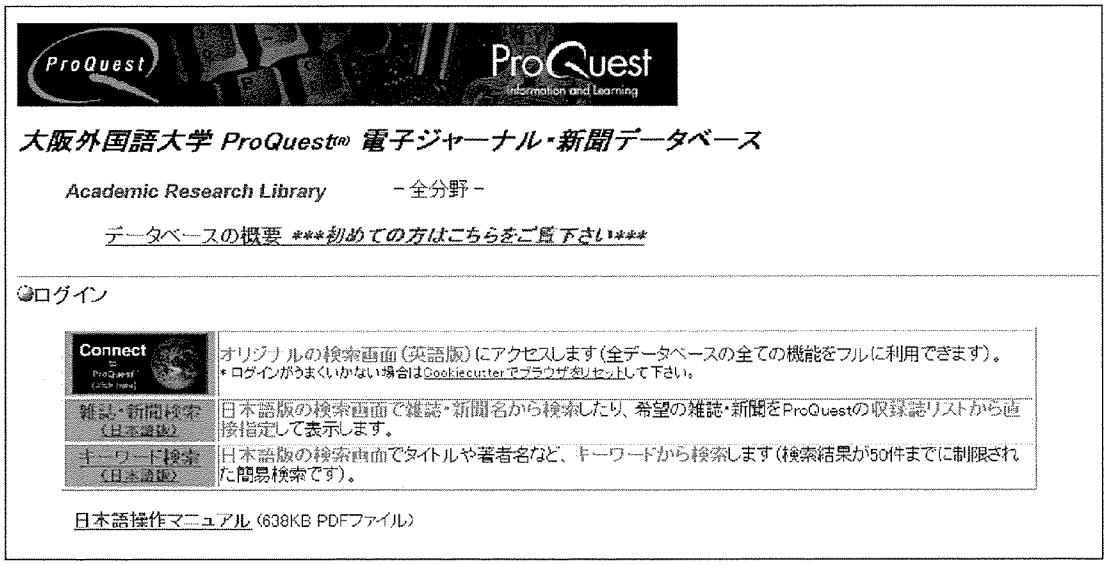
〈運用係〉

皆さんは電子ジャーナルを知っていますか？電子ジャーナルとは、簡単に言えばパソコン上で見られる雑誌のことです。CD－ROM形態のものもあれば、インターネット上で見られるものもあります。冊子体と比べて、検索機能が充実していますので、インターネットで皆さんが検索するように、キーワードを入れると、そのキーワードが含まれる記事あるいは論文がパソコンで見られます（中には、著作権上見られないものもあります）。

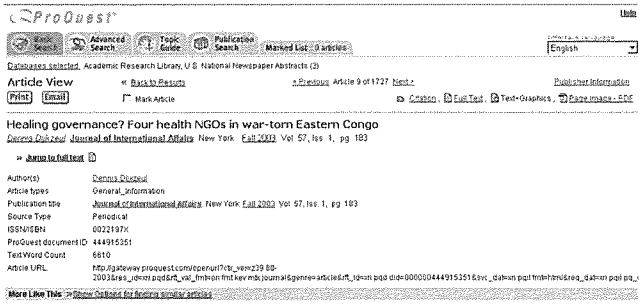
外大図書館では、ProQuest Academic Research Libraryという電子ジャーナルを使うことができます。たとえば、"Applied Linguistics", "Bioscience", "Economic Development and Cultural Change", "Environment", "Human Organization" , "Policy Studies Journal", "Journal of Physical Education, Recreation & Dance" など人文科学から医学・科学技術まで幅広い分野の学術雑誌、そしてNew York Times、USA TODAY、Wall Street Journal といった新聞が、1986年から現在まで検索できます。記事の形式は、書誌、抄録、フルテキスト、フルイメージ（PDFファイル）、画像を含むフルテキストです。記事は電子メールでも送付できます。図書館内のパソコンはもちろん、学内LANに接続されたパソコンで使用できます。

附属図書館のホームページ（http://wwwlib.osaka-gaidai.ac.jp）からアクセスできますので、今すぐトライしてみてください。

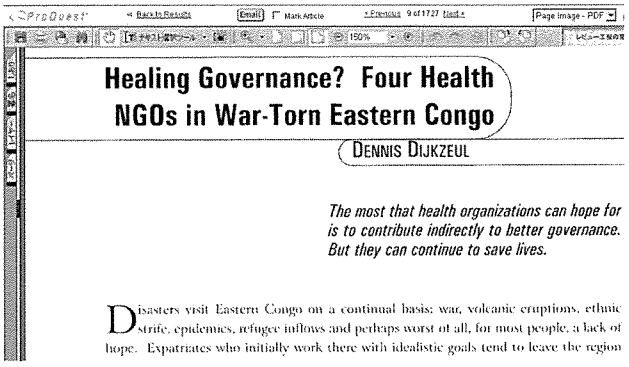
＜下は初期画面＞




＜検索結果の例＞




＜本文記事の例：PDFファイル＞

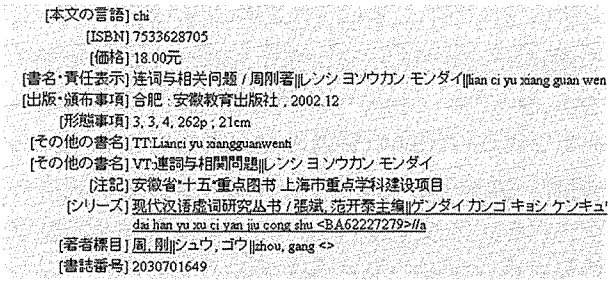


# OPAC（オンライン蔵書目録）の多言語対応について

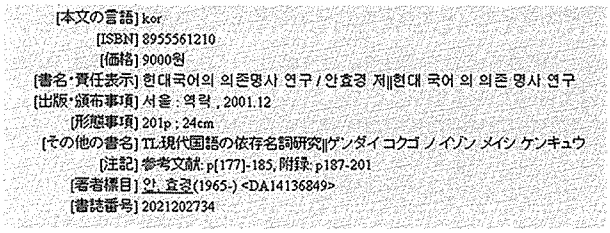
〈運用係〉

附属図書館では、平成15年８月にOPAC*注1を多言語対応に変更したことにより、これまで検索・表示が可能だったラテン文字（アルファベット）、日本語、ギリシャ語（ギリシャ文字）、ロシア語（キリル文字）に加えて、新たに中国語（簡体字）、朝鮮語（ハングル文字）、アラビア語（アラビア文字）が検索・表示できるようになりました。

中国語（簡体字）の表示例


[本文の言語] chi
[ISBN] 7533628705
[価格] 18.00元
[書名・責任表示] 连词与相关问题 / 周刚著||レンシ ヨンウカン モンダイ||lian ci yu xiang guan wen
[出版・頒布事項] 合肥 : 安徽教育出版社 , 2002.12
[形態事項] 3, 3, 4, 262p ; 21cm
[その他の書名] TT:Lianci yu xiangguanwenti
[その他の書名] VT:連詞与相関問題||レンシ ヨ ソウカン モンダイ
[注記] 安徽省"十五"重点图书 上海市重点学科建设项目
[シリーズ] 现代汉语虚词研究丛书 / 張斌, 范开泰主编||ゲンダイ カンゴ キョシ ケンキュ'
dai han yu xu ci yan jiu cong shu <BA62227279>//a
[著者標目] 周, 刚||シュウ, ゴウ||zhou, gang <>
[書誌番号] 2030701649

朝鮮語（ハングル文字）の表示例


[本文の言語] kor
[ISBN] 8955561210
[価格] 9000원
[書名・責任表示] 현대국어의 의존명사 연구 / 안효경 저||현대 국어 의 의존 명사 연구
[出版・頒布事項] 서울 : 역락 , 2001.12
[形態事項] 201p ; 24cm
[その他の書名] TL:現代国語の依存名詞研究||ゲンダイ コクゴ ノ イゾン メイシ ケンキュウ
[注記] 参考文献: p[177]-185, 附録: p187-201
[著者標目] 안, 효경(1965-) <DA14136849>
[書誌番号] 2021202734

アラビア語（アラビア文字）の表示例

[出版国] ua
[書名の言語] ara
[本文の言語] ara
[書名・責任表示] القلق / أبو مدين الشافعي||al-Qalaq
[出版・頒布事項] 1957 , مصر : دار المعارف
[形態事項] 159 p. ; 17 cm
[シリーズ] اقرأ||Iqra' <BA24623908> 170//a
[著者標目] *Shafi', Abū Madyan <>
[件名標目] BLSH:Anxiety//K
[書誌番号] 2021200545

＜表示法＞

OPACではUCS文字セット（UTF-8）*注2を使用することにより多言語を表示させています。UCS文字セット（UTF-8）と対応するブラウザ（Internet Explorer 5.5以上、またはNetscape6以上を推奨。）を用意してください。

＜入力法＞

●Windowsの場合：Windows 95, 98, Meは、中国語、朝鮮語を入力する場合Microsoft Global IME（マイクロソフト社から無償提供）をインストールして下さい（アラビア語はOS上で設定できます）。Windows2000以降は中国語、朝鮮語、アラビア語ともにOS上で設定してください。ただしWindow95ではアラビア語の入力はできません。

●Macintoshの場合：Mac OS Xは標準で多言語対応になっています。Mac OS 9は付属のLanguage Kitのオプションインストールで、Mac OS 8.5／8.6はMultilingual Internet Accessのカスタムインストールで各言語をインストールしてください。

OS 8.5より前のバージョンをお使いの場合は、各言語のKitをご自分で入手していただく必要があります。

詳しい設定については、大阪外国語大学多言語同時処理室ホームページをご覧下さい。
(http://mlang1.osaka-gaidai.ac.jp/~tagengo/index.html)

図書館２階または３階のMacintoshは設定済みですのでそのままご利用ください。

ヒンディー語・ベンガル語・ウルドゥー語・ペルシア語については、本館が独自開発した多言語検索システムもご利用ください。
(http://wwwlib.osaka-gaidai.ac.jp/files/multilan/tagengo.html)

*注１　OPAC：Online Public Access Catalogの略。コンピュータ上での図書館の蔵書目録のことです（全蔵書約62万冊のうち、約47万冊のデータが検索可）。データ化されていないものもありますのでカード目録とあわせてご利用ください。

*注2　UCS文字セット（UTF-8）：Universal multiple-octet coded character setの略。
世界各国でコード化される文字を統一的に取り扱おうとする国際規格。UTF-8は、UCSまたはUnicodeを直接扱うのが困難な環境のための8ビット用の変換フォーマットをいう。（英和コンピュータ用語大辞典第3版より）

# 平成15年 貸出図書ベスト30

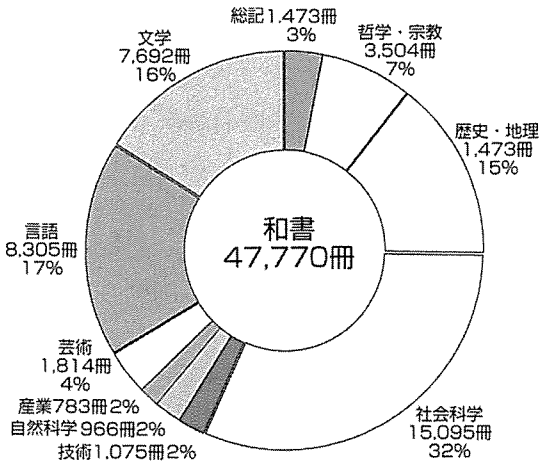
1　ねじまき鳥クロニクル第一部・第二部・第三部／村上春樹著　913.6 || R ||　37回
2　ノルウェイの森　上・下／村上春樹著　913.6 || R ||　25回
3　ヨーロッパ国際関係史／渡邊啓貴編　319.3 || 84 ||　15回
4　人間失格　グッド・バイ　他一編／太宰治著　913.6 || 503 ||　13回
5　スペイン語学入門／出口厚実著　865 || 296 ||　13回
6　子供は言語をどう獲得するのか／スーザン・H・フォスター＝コーエン著　801.04 || 479 ||　13回
7　現代政治の思想と行動／丸山眞男著　311 || 184 ||　13回
8　EU諸国／小川有美[ほか]著　302 || 533 || 6　13回
9　モモ／ミヒャエル・エンデ作，大島かおり訳　943.7 || 6 ||　12回
10　表現を味わうための日本語文法／森山卓郎著　815 || 407 ||　12回
11　現代若者ことば考／米川明彦著　814 || 157 ||　12回
12　新しい日本語学入門／庵功雄著　810.1 || 76 ||　12回
13　日本語の音声／窪薗晴夫著　808 || 36 || 2　12回
14　会話分析／泉子・K・メイナード著　801.09 || 88 || 2　12回
15　イスラームにおける女性とジェンダー／ライラ・アハメド[著]、林正雄[ほか]訳　367.228 || 61 ||　12回
16　ロシア経済事情／小川和男著　332.38 || 284 ||　12回
17　ＥＵの政治／田中俊郎著　312.3 || 83 ||　12回
18　おろしや盆踊唄考／中村喜和著　210.5 || 163 ||　11回
19　日英対照動詞の意味と構文／影山太郎編　835.5 || 68 ||　11回
20　複合動詞の構造と意味用法／姫野昌子著　815.5 || 25 ||　11回
21　日本語学のしくみ／加藤重弘著、町田健編　810.8 || 38 || 4　11回
22　日本語文法のしくみ／井上優著、町田健編　810.8 || 38 || 1　11回
23　外来語とは何か／田中健彦著　801.4 || 216 ||　11回
23　世界の言葉散策／亜細亜大学慣用句比較研究プロジェクト編　801.4 || 212 ||　11回
25　対照言語学／生越直樹編　801.09 || 133 ||　11回
26　ヴォイスとアスペクト／鷲尾龍一、三原健一著　801.09 || 108 || 7　11回
27　アジアの食文化／秋野晃司、小幡壮、澁谷利雄編著383.8 || 16 ||　11回
28　ロシア経済／小野堅、岡本武、溝端佐登史編　332.38 || 289 ||　11回
29　図説国際法／西井正弘編　329 || 198 ||　11回
30　静かな革命／南塚信吾著　234.7 || 19 ||　11回

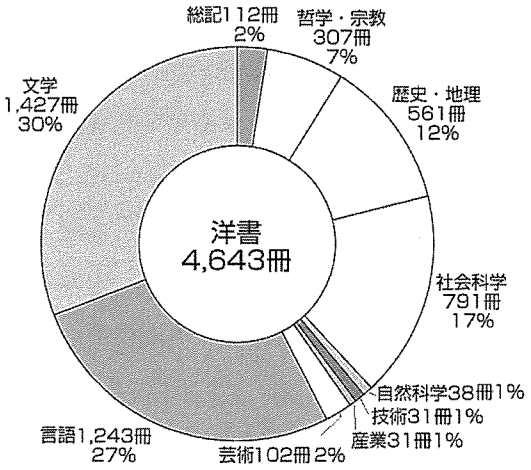
# 平成15年身分別入館者数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昼間主1年 | 4,218 | 1,530 | 79 | 2,118 | 2,445 | 2,275 | 4,253 | 123 | 419 | 2,354 | 1,767 | 2,329 | 23,910 |
| 昼間主2年 | 4,089 | 1,344 | 125 | 1,863 | 2,536 | 2,701 | 4,865 | 171 | 507 | 2,891 | 1,916 | 2,229 | 25,237 |
| 昼間主3年 | 3,411 | 1,252 | 136 | 2,326 | 3,341 | 3,502 | 4,114 | 307 | 810 | 3,237 | 2,450 | 2,800 | 27,686 |
| 昼間主4年 | 3,678 | 1,573 | 287 | 2,261 | 3,132 | 3,101 | 3,920 | 545 | 1,160 | 4,794 | 3,336 | 3,813 | 31,600 |
| 夜間主1年 | 708 | 224 | 9 | 447 | 590 | 450 | 810 | 27 | 90 | 496 | 329 | 354 | 4,534 |
| 夜間主2年 | 874 | 371 | 30 | 397 | 518 | 534 | 897 | 33 | 82 | 606 | 497 | 544 | 5,383 |
| 夜間主3年 | 725 | 273 | 34 | 498 | 732 | 719 | 829 | 48 | 147 | 754 | 525 | 644 | 5,928 |
| 夜間主4年 | 904 | 310 | 20 | 609 | 790 | 818 | 1,018 | 83 | 187 | 1,162 | 760 | 974 | 7,635 |
| 院前期1年 | 294 | 173 | 49 | 546 | 725 | 621 | 693 | 69 | 173 | 789 | 533 | 589 | 5,254 |
| 院前期2年 | 340 | 213 | 79 | 425 | 572 | 545 | 540 | 71 | 246 | 548 | 409 | 445 | 4,433 |
| 院後期1年 | 58 | 52 | 22 | 59 | 102 | 70 | 86 | 26 | 40 | 114 | 85 | 86 | 800 |
| 院後期2年 | 42 | 33 | 35 | 49 | 60 | 51 | 65 | 17 | 39 | 102 | 55 | 73 | 621 |
| 院後期3年 | 88 | 76 | 31 | 119 | 136 | 102 | 129 | 34 | 60 | 145 | 94 | 92 | 1,106 |
| 留学生1 | 78 | 91 | 14 | 75 | 111 | 103 | 100 | 6 | 28 | 38 | 17 | 34 | 695 |
| 留学生2 | 51 | 52 | 12 | 37 | 28 | 43 | 24 | 6 | 9 | 110 | 45 | 28 | 445 |
| 留学生3（短期） | 34 | 29 | 16 | 10 | 39 | 46 | 32 | 9 | 8 | 32 | 18 | 15 | 288 |
| 研究生 | 84 | 55 | 43 | 94 | 144 | 180 | 155 | 11 | 16 | 216 | 188 | 128 | 1,314 |
| 聴講生 | 40 | 20 | 6 | 44 | 85 | 77 | 93 | 11 | 32 | 78 | 64 | 79 | 629 |
| 卒業生 | 72 | 70 | 47 | 86 | 133 | 180 | 195 | 78 | 56 | 113 | 80 | 73 | 1,183 |
| 非常勤講師 | 159 | 121 | 42 | 204 | 284 | 285 | 270 | 24 | 69 | 272 | 188 | 199 | 2,117 |
| 教職員 | 209 | 184 | 84 | 262 | 319 | 300 | 356 | 112 | 178 | 302 | 205 | 230 | 2,741 |
| 学外者 | 162 | 94 | 44 | 194 | 339 | 317 | 371 | 160 | 113 | 364 | 254 | 186 | 2,598 |
| 外国人研究者 | 17 | 7 | 3 | 7 | 8 | 4 | 7 | 5 | 6 | 5 | 5 | 16 | 90 |
| 合計 | 20,335 | 8,147 | 1,247 | 12,730 | 17,169 | 17,024 | 23,822 | 1,976 | 4,475 | 19,522 | 13,820 | 15,960 | 156,227 |
| 1日平均 | 968 | 388 | 59 | 606 | 818 | 811 | 1,134 | 94 | 213 | 930 | 658 | 760 | ※643 |

※平成15年1日平均入館者数

# 平成15年分類別貸出状況



# 蔵書検索システム・言語別データ登録状況

平成16年1月31日現在

## 本学開設言語及び100冊以上の登録のあるもの （69種類, 計445,890冊）

| | 言語名 | 冊数 |
|---|---|---|
| 1 | 日本語 | 187,242冊 |
| 2 | 英語 | 79690冊 |
| 3 | 中国語 | 45,460冊 |
| 4 | ロシア語 | 23,661冊 |
| 5 | ドイツ語 | 13,286冊 |
| 6 | フランス語 | 12,871冊 |
| 7 | ヒンディー語 | 12,310冊 |
| 8 | スペイン語 | 11,335冊 |
| 9 | ウルドゥー語 | 8,326冊 |
| 10 | タイ語 | 7,666冊 |
| 11 | イタリア語 | 4,835冊 |
| 12 | ビルマ語 | 4,604冊 |
| 13 | インドネシア語 | 4,103冊 |
| 14 | ポルトガル語 | 4,021冊 |
| 15 | 朝鮮語 | 3,044冊 |
| 16 | ハンガリー語 | 2,461冊 |
| 17 | トルコ語 | 2,283冊 |
| 18 | アラビア語 | 2,207冊 |
| 19 | ペルシア語 | 2,064冊 |
| 20 | ベンガル語 | 1,807冊 |
| 21 | モンゴル語 | 1,435冊 |
| 22 | デンマーク語 | 1,397冊 |
| 23 | スウェーデン語 | 1,125冊 |
| 24 | リトアニア語 | 1,096冊 |

| | 言語名 | 冊数 |
|---|---|---|
| 1 | ベトナム語 | 868冊 |
| 2 | スラブ諸語 | 520冊 |
| 3 | スワヒリ語 | 517冊 |
| 4 | ラテン語 | 431冊 |
| 5 | パンジャーブ語 | 413冊 |
| 6 | 現代ギリシャ語(1453-) | 350冊 |
| 7 | フィリピノ語 | 332冊 |
| 8 | オランダ語 | 326冊 |
| 9 | セム・ハム諸語 | 308冊 |
| 10 | チェコ語 | 282冊 |
| 11 | ポーランド語 | 266冊 |
| 12 | 古代ギリシャ語(to1453) | 181冊 |
| 13 | アルタイ諸語 | 134冊 |
| 14 | マライ語 | 122冊 |
| 15 | ウズベク語 | 122冊 |
| 16 | サンスクリット語 | 112冊 |
| 17 | エスペラント語 | 93冊 |
| 18 | ヘブライ語 | 78冊 |
| 19 | チベット語 | 46冊 |
| 20 | パーリ語 | 41冊 |
| 21 | ウイグル語 | 39冊 |
| 22 | カタロニア語 | 27冊 |
| 23 | タミル語 | 24冊 |
| 24 | ﾆｼﾞｪｰﾙ･ｺﾙﾄﾞﾌｧﾝ諸語 | 21冊 |

| | 言語名 | 冊数 |
|---|---|---|
| 1 | セルボ・クロアチア語 | 20冊 |
| 2 | バントゥ諸語 | 13冊 |
| 3 | シリア語 | 13冊 |
| 4 | シンハラ語 | 13冊 |
| 5 | キクユ語 | 13冊 |
| 6 | ルーマニア語 | 12冊 |
| 7 | ヨルバ語 | 12冊 |
| 8 | アラム語 | 9冊 |
| 9 | アッカド語 | 7冊 |
| 10 | シャン語 | 7冊 |
| 11 | モン・クメール諸語 | 6冊 |
| 12 | ウェールズ語 | 4冊 |
| 13 | カレン語 | 4冊 |
| 14 | 教会スラブ語 | 3冊 |
| 15 | オスマントルコ語 | 3冊 |
| 16 | リンガラ語 | 5冊 |
| 17 | ハウサ語 | 3冊 |
| 18 | ソグド語 | 2冊 |
| 19 | ベンバ語 | 1冊 |
| 20 | | |
| 21 | | |
| 22 | | |
| 23 | 多言語 | 693冊 |
| 24 | 言語名不明 | 1,086冊 |

## その他の言語 （100種類, 計1,545冊）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| アイスランド語 | カチン語 | ソマリ語 | マルタ語 | マラヤーラム語 |
| アイルランド語 | カラ・カルパク語 | ソルビア語族 | ラオ語 | 現代プロヴァンス語 |
| アゼルバイジャン語 | ガンダ語 | タイ諸語 | ラトヴィア語 | 古期プロヴァンス語 |
| アチェー語 | カンナダ語 | タタール語 | ルオ語 | 古期英語(ca. 450-1100) |
| アッサム語 | カンバ語 | チュヴァシュ語 | ロマニ語 | 中世英語(1100-1500) |
| アフリカーンス語 | キルギス語 | ツワナ語 | ロマンス諸語 | 古代ペルシャ語 |
| アムハラ語 | グジャラーティー語 | テルグ語 | フィン・ウゴル諸語 | 白ロシア語 |
| アラウカン語 | クメール語 | トゥルクメン語 | フィン語 | Acoli |
| アラワク語 | グルジア語 | ドラヴィダ諸語 | プシュトゥー語 | Creoles and Pidgins |
| アルメニア語 | クルド語 | ナイロ・サハラ諸語 | プラークリット諸語 | Gallegan |
| イディッシュ語 | コプト語 | ニャンジャ語 | ブルガリア語 | Khasi |
| イラン諸語 | ザポテック語 | ネパール語 | ベルベル語族 | Magahi |
| インド諸語 | サンターリー語 | ネワール語 | ボージプリー語 | Maithili |
| ウォロフ語 | シナ・チベット諸語 | ノルウェー語 | ホサ語 | Nyankole |
| ウクライナ語 | ジャワ語 | パーラヴィー語 | マオリ語 | Nyoro |
| エウェ語 | シュメール語 | バシキール語 | マケドニア語 | Oromo |
| エストニア語 | ショナ語 | バスク語 | マサイ語 | Philippine |
| エチオピア語 | ズールー語 | パプア諸語 | マタベレ語 | Sukuma |
| ガエリック語 | スコットランド語 | バルーチー語 | マラーティー語 | Yupik languages |
| カザーフ語 | セム諸語 | バルト諸語 | マラガシ語 | Miscellaneous |

*開設言語については大阪外国語大学ホームページ（http://www.osaka-gaidai.ac.jp/）をご参照下さい。
*開設言語のうち華南語・古典漢語は「中国語」、満州語は「アルタイ諸語」、アイヌ語は「Miscellaneous」に含まれます。

# ―― 中国語資料の目録整備プロジェクトに参加して ――

大学院言語社会研究科　言語社会専攻3年
鈴木 慎吾

2001年6月より中国語図書の目録整備のプロジェクトに参加させていただきました。今回のプロジェクトにより、本学図書館が所蔵する中国語図書のほぼ全てについて、書誌情報がデータ入力され、Web-OPAC上で自由に検索できるようになりました。以下、現在までに利用できるようになった目録件数をご紹介させていただきます。(2004.1.21現在)

・データ総数（冊数）　：45,269
（うち 既存データ流用数　：2,856）
（　既存データ修正数　：20,214）
（　新規作成数　：22,199）

従来、書誌データは2万余しか入力されていませんでしたが、現在までにほぼ全ての入力が完了しています。また、従来のデータは簡略なものが多かったのですが、既存データほぼ全てについて、国立情報学研究所のマニュアルで標準化された詳細書誌に修正・更新し、より効率的な検索に利用できるようになりました。

・分類別（冊数）

| | |
|---|---|
| 0（総記） | 1,803 |
| 1（哲学） | 1,038 |
| 2（歴史） | 6,972 |
| 3（社会科学） | 5,822 |
| 4（自然科学） | 575 |
| 5（技術） | 417 |
| 6（産業） | 807 |
| 7（芸術） | 856 |
| 8（言語） | 4,709 |
| 9（文学） | 9,343 |
| 旧分類 | 1,508 |
| 相浦・伊地智文庫 | 7,123 |
| その他（雑誌,AV他） | 4,291 |

以上のうち、39,480冊が書庫に配置されています。ほかに開架（410冊）、教官研究室（5,218冊）等にも配置されています。

2003年8月からWeb-OPACのシステムが更新され、簡体字などの多言語表示が可能となりました。検索に関しても、新システムでは日中いずれの漢字でも同時にヒットするようになりました。みなさまに有効に活用して頂けるよう願っております。

最後になりましたが、プロジェクト期間中ご指導・ご協力賜りました教職員の皆様方に御礼申し上げます。

# ―― ウルドゥー語図書整理プロジェクトに参加して ――

大学院言語社会研究科　地域言語社会専攻2年
渡邉 真理

ウルドゥー語の図書整理を始めて3年、アラビア文字によるウルドゥー語図書の所蔵検索システムが始動したとともに、約7千冊が書誌作成の規則にのっとって、改めて翻字・入力しなおされた。アルバイトを始めるまで、特に意識していなかった所蔵検索の書誌画面が、職員の方々に教えていただきながら作成していくうちに、精緻かつ厳密な規則に基づいて作られていることを知り、書誌の奥深さを痛感している。

わずか10年ほど前まではカードをめくって行われていた所蔵検索が、今ではキーワード検索や複数条件での検索もPCによって可能となり、研究効率を上げるうえで欠かせない存在となっている。のみならず、日本全国の大学図書館および研究機関に所蔵されてある本を、手にとらなくてもその書誌が一目瞭然であり、取り寄せ・閲覧ができるのもPCによる検索システムと、そこに公開される書誌の賜物である。

私が担当しているウルドゥー語の図書は所蔵している大学が少なく、本学が日本で初めて所蔵するものが大半を占める。そのため書誌を流用することができず、一冊の書誌を作り、分類する（請求記号を付けること。この規則も全国共通。）のに30分はかかる。こう考えてみると、果てしない冊数の本が登録済みであり、上述したサービス等を提供してくれることに、これまでに並々ならぬ努

力があったことを感ぜずにはいられない。

私たちが手にとるその本の選書作業を行う収書作業部会には、院生の参加も認められており、またリクエストカードによる学生の要望も最大限に生かされている。読まれるために生を受けた本と、その本が多くの目に触れられるよう敷かれた検索システム、この関係の向上のために私は今後も正確に書誌を作っていきたい。また、質の高い所蔵の充実に向けて、今後、私たち学生は各々の専門分野において必要とされる文献のリクエストを積極的にしていき、図書館の運営に関わっていきたいものである。

## 図書館について

言語社会研究科国際コース研究生
何　姵儀

研究生として大阪外国語大学で勉強を始めた時、最初は書庫の存在をほとんど知りませんでした。コンピュータで検索すると、借りたい本の数多くが、「書庫」の「所在」となっていたため、ようやく気が付きました。また、書庫ガイダンスや入庫証の申請についての情報が殆ど無く、図書館案内にも書かれていないと思います。結局最初の一年は殆ど図書館を利用することなく経ちました。

基本的には、大学院に入るために研究生になる場合が多いと思われます。そのため、研究生の図書使用頻度は、大学院生や四回生と変わらないと思われます。しかし、閲覧室しか利用できず、書庫の存在を知っても利用できるのかどうか分かりません。もし現在研究生が書庫を利用できない規則になっているとすれば、院生と同程度に扱って欲しいと思いますし、もし利用できるのならば、申請方法などのルールを分かり易く明示して欲しいと思います。

書庫の存在について詳しく知ったのは、図書館でアルバイトを始めてからのことです。それまでは、自分の専攻分野や書庫２階の中国語図書しか知りませんでした。中国語と深い関係にある伊地智文庫や相浦文庫については殆ど知りませんでした。伊地智文庫と相浦文庫には、語学関係だけではなく中国語小説など、書庫２階の中国語図書には無いものが実は多数所蔵されています。にもかかわらず学生にあまり知られていないのは非常に残念なことだと思います。

図書館ガイドやホームページでは、ただ本や論文の検索方法についてだけではなく、学生が積極的に図書館を利用するように、図書館の特色についてもアピールした方が、利用者は増えると思います。現在、図書館のホームページではヒンディー語、ベンガル語、ペルシア語、およびウルドゥー語の蔵書を検索することができます。これは他の大学にはなかなか見られない特色だと思います。また、大阪外国語大学にしかない大型コレクションや石濱文庫、武藤文庫、伊地智文庫、尾崎文庫などのような本学卒業生や教授などが寄贈した文庫は、「所蔵検索」のなかにリンクが張られていますが、多言語検索システムと同様に図書館の蔵書特色として大いにアピールすべきだと思います。

図書館というのは、ただ学生に本を貸し出すだけではなく、今まで大阪外国語大学出身の卒業生や先生方が寄贈した図書や、大阪外国語大学に特有の検索法などを積極的に利用者に知らせないと、苦労して購入し、整理した図書が書庫の中に座ったままになってしまいます。

## 大阪外大附属図書館への2つの要望

大学院言語社会研究科　言語社会専攻1年
中嶋　善輝

昨年、私は数ヶ月に亙って、隔週で開かれた図書館の収書会議に、大学院生側からの代表の一人として参加させて頂いた。このことは、図書館の運営についてこれまで専ら他人任せでいた私個人にとっても、大変意義深い時間であったと思う。そういった縁もあり、外大図書館の運営にささやかなりとも携わった者として、僭越ながらこの機会に、私個人の視点から外大図書館に感じてきた、２つの不便な点につき、改善の要望を提起したい。一つ目は、館内の検索用パソコンについてである。

私は、ウィンドウズでないあの見慣れない画面は、実に親近感が持てないでいる。用語や操作に戸惑ってしまう（院生同士でも使いづらい、という意見を聞く）。普段マッキントッシュのOSを使い慣れていない多くの利用者の便に鑑みると、ウィンドウズも導入して欲しい。

二つ目は、開架や書庫の教官貸し出し中の書籍についてである。私は図書館を訪れると、特に目当ての本がなくても、開架や書庫に足を運び、興味ありそうなものを実際に手に取ってみて、何とはなしにぱらぱらと眺めて過ごすことがある。こうしていると、時に思わぬヒントや、目新しい考え方に出くわすこともある。ところが、私がよく立ち寄る（書庫の）書棚は大体決まっているので、そこで目にする本のレパートリーはすでに目を通したことのあるものばかりとなり、もはや新鮮味もあまり感じられなくなった。ところが、図書館の蔵書類は何も館内でのみ保管しているのではない。今風の面白そうな書物の多くは、実際には各教官の研究室に配置されてしまっている。従ってここでの要望は、せめてそういった目に触れにくい出張中の蔵書は、図書館では整理番号ごとにファイル（例えば、差し替え容易な名刺状の用紙に記して）して各書棚に設置してほしい。そうすれば、その目録を見た利用者は、関係分野ごとに蔵書名とその所在も一目で把握できるため、図書館所蔵本に対し幅広くアプローチでき、いっそう便利良いものとなるのではなかろうか。

以上の２点を是非一考願いたく思うのである。

# ―図書館利用者から見た貸し出しシステムの問題の描写―

大学院言語社会研究科　地域言語社会専攻１年
鈴木　幸平

この一年、収書委員として活動してきたが当時私は本学にきたばかりで、右も左も分からない状態であった。そんなわけで、私の最初の収書委員としての仕事は本学図書館の仕組み、特徴等を把握することであった。

本学図書館には60万冊を超える資料が存在する。言語に関していえば外国語大学という大学の特性上、資料は日本語のみならず、英語、ヒンディー語、ベンガル語、ウルドゥー語、ペルシア語等非常に多岐に渡り、その分野も人文、社会、語学の諸分野を網羅している。このため私の浅学から自分の興味分野以外の資料にどのようなものがあるのか分からず、正直、悪戦苦闘の毎日であった。

ところでOPAC等で調べるとすぐに分かることであるが、本学図書館の本を検索すると、「所在教官研究室」となっているものが非常に多い。これは上で述べた本学図書館の特性上、仕方がないことでもあるが、それらの中には複数の教官が所有しているような重要なものも含まれており、ここから私の周囲の一部で問題が生じていたようである。

資料のリクエストをする学生の立場からの問題として、私の周囲では「知っている教官が所有しているなら直接借りに行くが、知らない教官であったらあきらめる」という声がちらほら聞かれる。また、リクエストを出しても、教官が資料を持ってくるまで（教官が資料を他の学生に貸している場合かなり待たされることも有り得る）借りることが出来ないことがこの状況に拍車をかけているようである。

また、教官が個人的に学生に資料の貸し出しを行っている際にリクエストが入った場合、教官は学生から資料を一旦、返却してもらい、図書館に持っていくことになるのだが、貸し出し中に再度リクエストが入った場合、元の学生が教官から資料を再び借りることが出来るのはかなり先になってしまう可能性がある。例えば、卒論を書いている学生が教官から資料を借りている場合でも、冬場の論文提出前にリクエストを出され資料を手放さねばならなくなるリスクが存在することは問題であると思われる。

今後、大学の法人化を迎え、より図書館の財政は逼迫したものとなることが考えられるが、こうした問題を解決するために教官研究費で購入した資料の図書館からの切り離しを行うか（教官研究費で購入した本は図書館の本と同様、国有財産であり、教官の私的所有物ではないが）、より一貫した制度の制定を行う等、明確な指標を提示することで図書館利用者にとってより分かりやすいシステムにする必要があると思われる。本学図書館のより一層の充実に期待する。

## 平成15年度大阪外国語大学学術講演会（石浜文庫記念）を開催

本学主催の平成15年度大阪外国語大学学術講演会（石浜文庫記念）を、平成15年11月21日（金）に留学生日本語教育センター棟１階多目的ホールで開催した。

この講演会は、東洋学者・石浜純太郎博士の旧蔵書を「石浜文庫」として所蔵できたことを記念し、昭和54年から昭和63年までは毎年行なわれ、平成元年以降は5年毎に行われているもので、今回で第13回目となる。

菅原邦城・附属図書館長の司会により進行し、主催者代表として松田武・本学副学長から石浜文庫及び講演会趣旨の紹介、石浜家を代表して石浜紅子・なにわの海の時空館館長から、祖父にあたられる石浜純太郎博士の事跡についてのお話をいただいた。

引き続き講演に移り、橋本勝・本学教授から「『元朝秘史』（チンギス・ハン実録）の言葉をめぐって」、若松寛・京都学園大学教授から「モンゴル英雄叙事詩の世界ー草原を駆けめぐった武勇伝ー」と題して講演が行われた。

両講師の深い学識に基づく講演により、会場の118名の参加者は、遥か遠くの歴史に思いを馳せていた。

---

# 平成10年大阪外国語大学学術講演会（石浜文庫記念講演）

# 作家・石浜恒夫氏講演　「父純太郎と私」

去る本年１月９日に作家石浜恒夫氏（80歳）がお亡くなりになりました。氏は父上の石浜純太郎博士の膨大な旧蔵書を本学への寄贈を決断されました。したがって、氏は本学の「石浜文庫」の生みの親であります。ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

下記に掲載しました文章は、石浜恒夫氏が５年前に本学の「石浜文庫記念学術講演会」で講演された内容をテープ起こししたものである。

ご令嬢の石浜紅子氏に校正を依頼・許可いただき、今回始めて公開するものである。

ちょっと私、内臓は若者に匹敵するほど健康だそうですけれども、手足はちょっとまだしびれておりますので、座ったままで、車椅子のままでご勘弁下さい。

私が喋りはじめると女房がひやひやしていると思います。僕ももたもたもたもた喋って、それも大阪弁まじりで、講演なんて非常に下手だと思うとりますので、あんた早くやめて壇上から降りなさいよ、と言い聞かされておりますが・・・

私は大正12年の生まれでありますから75歳ですけれども、父が取り組みました西域地方の言葉、西夏語のきっかけをつかんで、発表しはじめたのが、丁度私の生まれた頃やと思います。父のそういうシルクロード方面の対する研究の端緒は、私にもわかりません。

父は大阪の旧制市岡中学の第１回卒業生のでありますけど、その２年当時の古い半紙を綴てそこへ日記を書いています。その日記のあるところに、丁度その頃に、日本人ではじめてチベットへ入ったといわれます川口慧海が日本へ帰国しました頃で、持って帰りました書物ならびに文物、帽子だとか袈裟だとか、日本で言う払子みたいものなどを大阪で展示されていたのを詳細に書いた部分があります。よほど興味深かったのか、展示物のへたくそなスケッチも添えられていました。

その展示会場だったのが、今の大阪国際ホテルのあたりにあった大阪博物場でした。

その隣に懐徳堂いう漢学塾がありました。自分も子供の頃から通っておりまして、漢詩の素読をしたり講義を聞いたりしていました。ですからその前にあった博物場は非常に懐かしいです。この建物は江之子島にあった大阪府庁の建物が移転さ

れて博物場として、そこで再活用されとったわけですね。

そう言えば私が、懐徳堂へ行っていた時、博物場近くの東横堀の所に何か鯨の骨みたいなんが、錆びた針金で吊り下げて並んでたり、猿が飼われてたりしていました。博物場附属の動物園やったらしいですね。だから、大阪の動物園の最初、天王寺へ動物園が出来たのが最初だとされてますが、その前にこの博物場の動物園ていうのが最初なんですね。

江戸期から船場を中心に大坂の商人たちはずいぶん学問熱心で漢学塾を中心にたくさんの私塾を作っています。

製薬会社を経営していました祖父も、懐徳堂をはじめ泊園書院などの支援をしておりました。父の純太郎の姉のカツも大阪の泊園書院に嫁いでおり、小さいじぶんからしょっちゅう遊びに行っていました。

懐徳堂には古い講堂がありまして、そこへ行きますと古い魚板が吊ってあって、講義なんかその魚板をグァングァングァンなぐる事が開始の合図でした。懐徳堂へ行ったころ小学校上級から中学校のはじめにかけてですけど、そこへは小さな子供まで習いに来てました。素読にしろ何しろ小さな幼稚園位の女の子が、すらすらすらすら木版を指す先生のさおの先でこうたどったら読みよるんです。まぁ、びっくりしました。

関西というところは、学問の土地ではないという明治時代に誰かがいいだしよったんですけれども、実をいうと関西こそ、好学の土地やったわけですね。だから、泊園書院にしろ懐徳堂にしろ、又ほかの学問所にしろ、たいていバックに大阪の財界の人がついとります。

偉いのは小さい子供へもでもね、やむなく休校の時には、いちいち丁寧に先生から、なにそれの素読は休校にいたします言う丁寧に書いた葉書を出していたとうことです。

先生からして態度がちごうとるんですね。自分が教えてるそんな小学校の生徒にいちいち休校のわけをきちんと葉書に書いて出すという先生、今はいないでしょ。

懐徳堂へ行って、漢詩を学びましたおかげて、小説やら、詩やら、ラジオ・テレビのシナリオから視聴覚のもの、それから歌謡曲あるいは、難しい学校の校歌やらカンタータやら、漢詩の豊かな表現を基礎に文章を書いてこれたとおもいます。

校歌の中には、高校野球で有名な作新学院、それから香川県の尽誠学院などの校歌を私がつくっております。ずいぶん前につくっております。面白いのは、それで私の校歌を歌うと甲子園に出られるという妙な伝説が飛んだようです。

私の父の純太郎も校歌を作っております。石浜家はそもそも淡路島の薬種問屋でした。その関係か、出身地の岩屋の近くの石屋小学校が開校のとき作り、歌い続けている校歌がそれです。開校百周年を記念して歌詞を石碑にして校庭に建てたそうです。ところが、作詞者の石浜純という人が誰かわからない。校長はじめ関係者がほうぼうの石浜さんへ飛んで歩いて調べてもそんな人知らん知らんばっかりなんで、誰やかろかという事になっていたそうです。たまたま私の甥がたまたま洲本行ってる時にその事聞いてその碑を見て、これおじさんの作ったんちゃうやろかと言って僕の所に電話かけてきたんです。そういえば私の小学校の時、毎夏岩屋で過ごしたんですが、親戚の子供達で、石屋小学校に行ってんのが、うちの学校の校歌おじさんが作ったんやと言うのを覚えてました。

うちの父が作ったという事を親父に聞いたら、親父は苦笑いしてました。

この大阪外大の石浜純太郎文庫は、父がまだ存命中に蒙古語科の１．２回の卒業生の方たちがうちへそろうてやって来られまして、先生の蔵書うちへ下さいとう話が出たのがきっかけです。あまりにも熱心なんで、本当は関西大学に収蔵されることが決めておりましたのを父の死後、この大阪外大へおさめたわけです。

父は、どんなものでも印刷物いうのを非常に尊びまして、例えば子供の時から新聞紙ですらその上またぐなとかという事にはたいして非常に厳しかったので、本に対して尊敬するような習慣がありましたんで、私も作家というような職業へ入ったんかもしれません。

父の同級生、市岡中学校の第１回卒業生の中にわが国の油絵の先駆者小出楢重や音楽家信時潔さんがいました。信時潔さんは「海ゆかば」の作曲者でもあります。その他にもコーラスの中でふっと歌っている歌の中に信時潔作曲というずいぶんあると思います。ほんまに自由奔放天衣無縫の人でした。実は私いわゆる学徒出陣で東大の２年生の時に兵隊行って２年間関東軍にいました。最後本土防衛で帰ってました。その後の大学に復学していたのですが、東京行っても東京丸焼けやし、だいいち下宿行くのに米一俵かついでいかんなぁ

泊めてくれへんと言いますと、信時潔先生が「あ、うちのお母さん死んで部屋が１つ空いてますから、いらっしゃい」言うてそのまま信時先生のお宅にご厄介になっていました。ところが、信時潔さんは「海ゆかば」の歌のために、進駐軍から目をつけられて、仕事ないんですよね。東京芸大も停職ですわぁ。自分も食われへん所へね。そこへまた復員してきた学生ようおいたなぁと思うんです。だから、一生懸命に信時さんの家の薪を割ったり、千葉の田舎まで、出かけて行って米かついで帰ったり、芋買いに行ったり、そんなんで手助けして約１年間お世話になりました。

そんな事あれこれしてるうちに突然川端康成さんから手紙が舞い込みまして、やっぱり１年近くお世話になりました。

父は私にこのような素晴らしい師との縁を残してくれました。この外大へ本を寄贈しました後、私は父が晩年こうしてほしいやろうなぁと思うような事を、せめてもの父への恩返しに全部果たしたつもりでおります。父は本を大事にしましたからね。その本を売れとかうるさいのは、兄弟何かもいいましたけども、頑としてここに持って来てもろうたんです。そうして、だから記念文庫というのが残ってね。ほんとによかったなぁと思います。

フランスのル・アーブルという港がございます。パリを流れるセーヌ川がずっと流れて行き、大西洋へ出るところです。

大阪港と姉妹港になってるんです。それを記念してル・アーブル港に日本庭園がこのたび作られました。

丁度その話が持ち上がった時、祖父の残しました大阪住吉大社近くの明治末期からの家をマンションに改築する所でした。

この家は祖父が晩年別荘代わりに建てたもので、余生を茶人で暮らすつもりだったらしく、庭には茶室や庭石、庭灯篭が多くありました。

近代建築のマンションにはそれらはそぐわないものとなっておりましたが、祖父が惚れ込み、奈良の由緒あるお寺から譲り受けてきた数百年前のものです。

また何より、父の純太郎が毎日ながめていた石灯篭です。

活きたかたちでの保存を考え、フランスのル・アーブルの日本公園に残しました。

そうしましたら、ル・アーブルの担当者が私を詩人だという事に気がつきまして、ル・アーブル市民に贈る詩を書いてほしいとの依頼がきました。10行ほどの短い詩ですが、フランス語の訳がついて石碑になっています。

死んだ父母や川端先生や信時先生皆あのあんな詩碑たったでと顔見合わせてね、にこっと笑おてるやろなぁと思います。これが私の父への孝養の１つを果たしたなぁと思っております。

『いきること　年あたらしき　濤のごと　いきかう夢も海も恋し、遠き近き海潮音を　鴎どり想いはありてセーヌ川は流れて海へそそぐ　故郷は　海の響きのみゆるところ』

まぁ不肖な息子でありますが、まぁ、皆さんよくぞお集まり下さってありがとうございました。（拍手）

## 【視聴覚資料係からのお知らせ】

★テープライブラリーではビデオ・DVD・CD・カセットテープなどの視聴のほか、世界各国17言語19局の衛星放送を受信できます。あわせて衛星放送も御覧ください。

★５階マルチメディア語学自習室ではパソコンを用いたTOEICならびにTOEFLの学習ができます。皆様の積極的な利用をお待ちしております。ただし、マルチメディア語学自習室ではインターネットやワープロ等の利用はできませんのでご注意ください。

## ◆編集後記◆

★国立大学法人への移行のため図書館所蔵資料の資産調査等で忙しかった平成15年度も終わり、４月から大学は新法人として出立することになるのですが、これまでの本学図書館が抱えていた様々な課題と問題が克服・解決できる大学改革であってほしいものです。そのために図書館に対する全学からの支援を受けながら新たな方向性を見出していきたいと考えています。（K）

表紙の写真は貴重図書 ORTELIUS, Abraham : Thetrum oder Schawplatz des Erdbodems〈地球の舞台〉（1572年刊）のアジア図の一部分である。表紙上方にJAPANが描かれている。

大阪外国語大学附属図書館報 《Library Information》 第15号

２００４年３月２６日発行

発行 大阪外国語大学附属図書館 〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東８-１-１

電話 ０７２－７３０－５１１１（代表）